



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
学
生
の
ツ
ム
ぐ

第31号

2017年8月8日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.10

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

5年連続「皆勤賞」の子たち



中学1年のD君が、町広報課の取材を受けていました。愛嬌のある笑顔で、いろいろ答えていました。D君は片葩小の出身で、有名人です。学習はゆっくり理解する子ですが、毎回、わくわく算数に参加してくれているから、SPや担当教師もすぐに覚えてしまうのです。

「ぼく、この算数教室、皆勤賞です。」「えっ？全部？ということは5年間？」「はい、小学3、4、5、6年、そして中1です」「この

夏休みに、わざわざ数学を勉強に来るのはなんで？」「楽しいからです」

この「楽しいから」、ここには「SPさんが親身に関わってくれるから」という意味が、間違いなく込められています。SPさんがほぼ1対1で関わってくれる。自分に関心をもってくれる、だから来るのです。普段の授業では、そこまで関わってくれる大人はいません。だいたい放っておかれる（本当はいけないことですが）という気持ちになる。でも、SPさんは必ず関わってくれる、喋ってくれる、教えてくれる、笑顔でいてくれる……。ここが、彼を、皆勤賞で参加させる動機なのです。



小学校5年生のE君。小学1年生から参加です。問題をコピーするだけなのに、こんな笑顔で関わってくれるSPさんと出会えるなら、暑さなんて関係ない、わくわく算数、規定回数いっぱいまで参加しちゃおう！と思うことでしょう。

このSPさん、コピーするときも「E君、ボタン押して、ありがとう」といいながらE君と関わってくれていました。